

日本住宅史の映像化に関する研究（その1）（梗概）

—— 伝統的・日本住宅から現代の住宅に至る住宅様式 ——

中川 武
須藤 諭

1. はじめに

住宅は、最も根強く保守的な歴史の基層とも言える庶民生活の場であったばかりでなく、時には時代の文化の先端に登場し、さらに長い時間をかけて庶民住宅に影響を及ぼしながらその歴史を形成してきた。

しかし、日本の庶民住宅の場合は、その構造が伝統的に木造で終始してきたこともあって残りにくく、中世以前の遺構はほとんど皆無であり、日本の住宅史を理解するためには、文献や考古・美術資料や社寺建築などから類推して各時代の住宅像を復元することによって、住宅史のイメージを描いていくという手段によらざるを得ない。このような日本の状況に対して、例えば西欧諸国にあっては、たとえ住宅建築であっても歴史的姿を現代に残している例が見られることから、現状の姿を確認していくことによって、その歴史的イメージをつかむことが比較的容易であると思われる。

「歴史的イメージをつかむ」という作業は、特に建築の初学者にとって非常に重要なことであると考え、先述したような作業によるのであれば、専門家にとってさえ容易なものではない。

そこで、本研究は、日本における住宅の歴史を、まずイメージとして定着させることを主眼として、特に初学者や一般の人々に対して簡潔に伝えることができるように、映像によって教材を試作開発することを本研究の目的とした。従って、ここではその制作のために検討された記録を報告することになる。

2. 映像化の方法

具体的な映像化の方法についておおよその流れをフロー図形式に表すと図-1に示すようになる。

①構成案（シノプシス）の作成

原作を映像化する上で、おおよそのストーリーのポイントを、許される時間（本研究の場合は15分に設定している）で、示すことが課題となる。文字で表現されている建築思想を映像に移植するための最初の作業である。

②シナリオの作成

ここでは具体的に映像として提示すべき史料・資料の抽出選定とそれに対応して、解説すべきコメントを検討することが必要になる。

③オリジナルテープ素材の作成（撮影）

作成されたシナリオに基づいて、映像素材の撮影取材の作業となる。この場合ビデオを記録媒体として用いているので、大きく分類して、既存の撮影されているビデオテープ素材の検索、及び必要に応じて、テープコピーの作成、同じくフィルム素材の場合はテレシネ装置によって、ビデオ素材に変換する。最も重要なのは新規の撮影録画であるが、これはさらに現地ロケとスタジオ内での撮影（主に資料類の撮影）に分けられる。

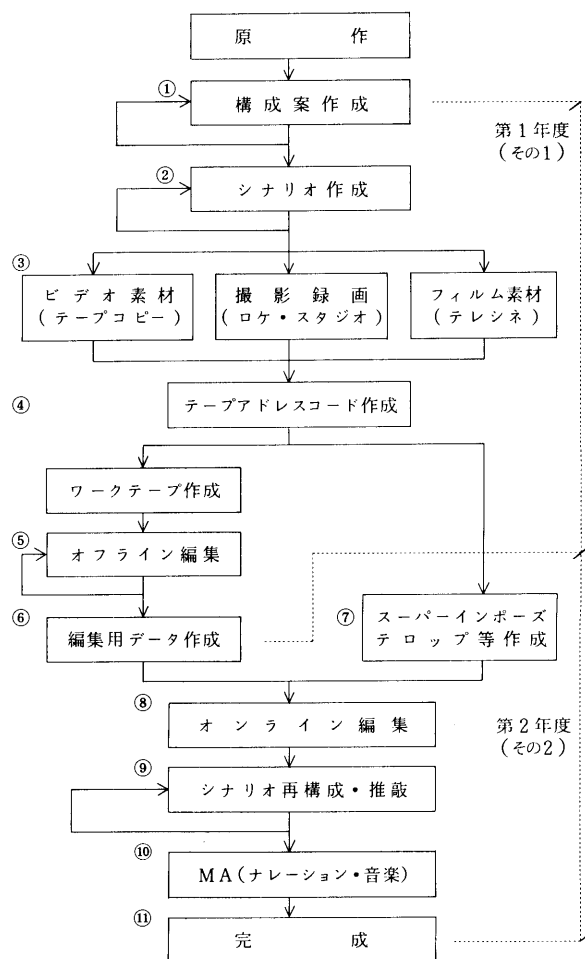


図-1 映像化の方法

④アドレスコード及びワークテープの作成

オリジナルテープ上にアドレスコードを作成し、オフライン編集（仮に行う検討用の編集）を行うためのワークテープ（1/2インチ VHS）を作成する。

⑤オフライン編集

シナリオに基づいて映像のワークテープを用いて仮編集を行いながら使用すべき映像素材を具体的に検討する。ここで用いられるのは1/2インチ VHS テープ用の編集装置である。

⑥編集用データの作成

オフライン編集によって、作成された検討用テープをもとに、アドレスコードによって編集用データを作成する。ここでは、1/30秒を単位として、データが作成される。

さらに以下は第2年度（その2）における作業であるが

⑦スーパーインポーズ、テロップ等作成

⑧オンライン編集

⑨シナリオ再構成・推敲

⑩ MA（ナレーション・音楽）

というプロセスが行われることになる。

3. 映像化シナリオの検討

3-1 構成案の作成

中川武著「日本の住宅」^{*)}を、試作する教材の原作作品と位置づけて、これをもとに映像化のための検討を行った。

映像化のためには、独自の映像言語に建築の思想を変換するという意味で、最終的には、シナリオとして、完成させることによって、映像制作者たちへの伝達が可能となる。従って、シナリオ化のために映像教材を構成する論点を、それに対応して、提示すべき映像のイメージを構築しておく必要がある。そこで、原作のエッセンスを抽出しながら、映像化にとっての向き不向きなどの観点も考慮しながら構成を検討した。

試作教材として許される映像作品の時間は15分である。そこで、本教材で視聴者に理解させる項目を以下のようにポイントを設定して構成することとした。

- 1) 都市形成の歴史と居住階層によりつくられてきた日本住宅
- 2) 日本住宅に見られる多様性
- 3) 現代日本住宅を理解するための特質
- 4) 特質1・門と玄関構え
 - ・日本人の住宅の理想像
- 5) 特質2・床形式の多様性
 - ・履物を履き替える習慣

- ・土間、板床、座敷
- ・北方系と南方系文化の継承

6) 特質3・和室のシステム

- ・書院造り
- ・座敷の多目的な利用
- ・座敷の道具

7) 特質4・内部と外部の関係

- ・庭園と室内の関係
- ・自然を切り取り内部化する技法
- ・内部と外部の曖昧な日本の中間領域
- ・露地と茶室の関係

8) 現代住宅と都市問題

以上のポイントについて、映像化の構成をまとめて示したものが表-1である。1)~3)についてはプロローグとして位置づけ「様々な種類の日本の住宅」をイメージとして例示した上で、伝統的な日本住宅の4つの特質を見いだせることを示すことにした。以下はこの4つの特質を主題として進めることにする。

4)については、まず各論の一として、「門と玄関構え」を取り上げ、日本人の住宅の理想像が門や玄関構えに現れながら継承されてきたことを、アプローチを十分にとった住宅などではもちろんのこと、ホテルの客室や、現代の狭隘な庶民住宅にあっても門や玄関が重要視されていることをとらえた映像から、示すことにした。

5)については、各論の二として、「床形式の多様性」を取り上げ、従来よくみられた土間・板床・座敷という3つの床形式の多様性が、北方系と南方系の2つの文化を継承しながら発展してきたものであり、この多様性故に日本住宅は豊かな空間を作り上げてきたことを、竪穴住居や高床住居、高山の住宅、書院造り等を例示しながら、表現することとした。

6)については、各論の三として「和室のシステム」を取り上げることにした。和室は書院造りにおいて様式化され、様々な用途に対応できる高度な空間として発展してきた。座敷や座敷飾りの使い方、襖・障子などの解放により連続した空間として対応できるばかりでなく、道具の利用によって、さらに多様な対応が可能となることを、示すことにした。

7)については、各論の四として、「内部と外部の関係」を取り上げ、自然の風景を住宅の内部へ、内在化しようとする寝殿造り以来の根強い伝統について、借景の技法、舟入りの技法などを紹介する。これらの技法は、ビル内部の空間にも取り入れられたり、マンションの中でも見ることができる。露地と茶室に見られる空間構成法についても解説する。

最後に、8)については、エピローグとして、「現代住宅と都市問題」を取り上げ、現代住宅は同時に都市問題としての側面も持っていることを指摘し、今後の新しい

住宅造りの中でも伝統的にはぐくまれてきた日本住宅の特質を生かしながら計画されていくべきことを示すこととした。

3-2 映像化シナリオ

次に、3-1で検討された映像教材の構成案に従って、シナリオ化を行った。この段階は、いわば建築の専門家

側と映像制作者側の橋渡しの作業となる。教材として示しておきたい映像とその映像を解説するためのコメントが検討されることになり、この段階で、建築専門家側と映像制作者側の共通理解が得られることになる重要な段階である。検討された内容については、以下に示すシナリオの通りであるが、ここでは最終稿（最終稿は第5稿に当たる）について、示すことにする。

表-1 「日本の住宅」構成案

項 目	画 面	主 な 内 容
1. タイトルとプロローグ (2分30秒)	様々な種類の日本の住宅 青梅の町家で解説する中川武	様々なタイプの現代日本の住宅は都市形成の歴史と居住階層によりつくられてきた。 多様性だけで言えば日本の住宅が達成した特質であるが、伝統的な特質が崩壊しつつある表れでもある。 現代日本の住宅には共通する4つの特質がみられる。
2. 各論一・門と玄関構え (2分00秒)	アプローチの長い邸宅 佃島の露地と町家 新高輪プリンスホテルの客室入口 狭い戸建て住宅と大邸宅との玄関構えの比較	大邸宅でも狭い露地に建つ町家でも玄関や玄関構えが重要視され、様々に工夫されてきた。 近代的なホテルの客室への入口に門・玄関構えのあるものもあり、これは日本人の住宅の理想像が門構えや玄関構えに深く根を下ろしていることを意味している。
3. 各論二・床形式の多様性 (2分30秒)	青梅の町家 住宅史の流れの中に堅穴住居 高床住居のスチールや喜多家 高山の吉島家、書院造りなどのシーンの挿入	玄関で履物を履き替える習慣は、気候や住宅素材との関係もさることながら床形式の多様性が無視できない。 1960年代頃までの住宅では土間・板床・座敷という3つの床形式がみられた。この床形式の多様性は北方系と南方系という2つの文化を継承しながら発展してきたものであり、日本人はこの多様性に対応し豊かな住空間を作り上げてきた。
4. 各論三・和室のシステム (2分00秒)	書院造りの図 座敷の使い方、道具の利用法	和室は書院造りでは接客空間として様式化され様々な用途に自在に対応できる高度な空間として発展した。 座敷や座敷飾りの使い方、襖・障子などの開放により連続した空間として対応できるばかりでなく、道具の利用でさらに多様な対応が可能になった。
5. 各論四・内部と外部の関係 (4分15秒)	銀座 大同生命(黒川紀章) 有楽町 胡蝶(大江 宏) 庭園付き豪華マンション 寝殿造り 絵巻物や新聞記事 軒下と縁、簾の掛かった座敷 京都円通寺 スライド 京都大仏殿の庭園 スライド 京都孤蓬庵 スライド 茶室への誘い 有楽町 胡蝶	庭園と室内の関係を通して形成された空間の特質の例として、超近代的なオフィスビルの中にある庭園。 ビルの地下などにある露地を構えた茶室や料亭。 都市部の高層マンションなどに見られる庭園は、自然の風景を大地の連続性から切り離して内部化しようとする表れであり、寝殿造り以来の根強い伝統である。 内部でも外部でもない曖昧な中間領域の存在も日本住宅の持つ特質である。 さりげなさの中に奥深い秩序を持つ豊かな境界デザインとしての借景の技法。 近接する狭い外部を親和化した舟入りの技法。 露地と茶室の関係は連続する空間の内面化を助長する卓越した空間構成法の例である。
6. エピローグ (1分45秒)	超高層ビル群 住宅展示場	現代住宅は都市問題と一体化して考えねばならない。 プレハブ住宅の中には高度な技術を駆使し、日本の伝統を取り入れているものが増えているが、日本人の生活思想と結びついてきた特質を把握する必要がある。

1	プロローグ 現代日本住宅の多様性	(二分二十秒)
---	------------------	---------

●シリーズ タイトル
『日本建築画像大系』

○荻窪 窪田家
メインタイトル『日本の住宅』

○中タイトル 多様な日本の住宅

○超高層ビルと足下の木造賃貸アパート群

○画面合成
青梅の民家と住宅展示場

○画面合成
低層密集住宅団地と山の手屋敷町

○画面合成
郊外住宅団地と郊外住宅地

○建築家の設計した住宅 四面合成

- ・石井和紘『54の窓』
- ・毛綱毅曠『反住器』
- ・山本理顕『ロトング』
- ・石山修武『幻 庵』

○青梅の町家 宮崎家の前
話す中川 武
⑤『中川 武』

○荻窪 窪田家
・門構え
・玄関構え

○青梅 宮崎家 土間・板床・畳部分
○青梅 宮崎家 障子の閉じた座敷

○閉じた状態
○室内・外部の境界
中川 武の画面合成(DVE 右下)
○中川 武に撮りきって

○様々な類型が認められる現代日本の住宅——

○これは都市形成の歴史と居住階層によってはぐくまれてきた結果である。

☆中川武——

今、東京には伝統的な住宅や工業化住宅、そして高層集合住宅、あるいは

建築家が設計した住宅など、実に多様な様々な様式や類型の住宅があります。
多様性ということだけに注目すれば、これは現代日本住宅が達成した注目すべき特質だと言えます。

☆しかし一方では、このような現象は、伝統的な住宅の特質が崩壊し、混乱してきたことでもあります。そこで、伝統的な特質と現代の多様性をつなぎ合わせる問題が重要になる訳です。現代の多様な住宅ですが、住み方や住宅の意味、そして空間の性格などに注目してみますと共通する四つの特質がうかがえます。

○一つは、門構えからのアプローチや玄関構えの問題。

○二つ目には、床形式の多様性の問題があります。

○三番目は、和室に象徴されるような建物の造り方と使い方が結びついた独特の空間システムです。

○そして四番目として部屋の内部と外部が、多様に、そして細やかに結びついた関係などを挙げることができます。これらの四つの特質はいずれも伝統的なものでありながら、同時に多様な現代の住宅にも共通する性格です。

(DIS)

(W・P)

(DIS)

2	各論一・門と玄関構え	(二分〇〇秒)
---	------------	---------

○中タイトル 門と玄関構え

○窪田家 門

○堀で囲まれた門を入り、奥深い前庭から玄関に導かれるという邸宅は、今では極く限られたものになってきた。

○移動で玄関へ
○玄関

○しかし、この住宅へのアプローチと玄関構えが日本の住宅では重要視され、様々に工夫されてきた。

○佃島 露地に軒を接する町家
○ひしめいている屋根
○建て屋
○玄関脇の飾り付け 移動

○狭い露地に、ひっそりと続いている小さな町家——

○梅の植木鉢
○建て屋

○磨きぬかれた玄関の格子戸には、いろいろな飾りを付け玄関サイドには植木鉢や草花などを用意して人々を温かく迎えてくれる工夫をする。

○新高輪プリンスホテル 外景
⑤『新高輪プリンスホテル 村野藤吾』
○客室入口部に z・in
○門灯⇒ PD
○入口部

○近代的なホテルの客室への入口が、門や玄関構えを象徴したデザインとなっている例さえある。
○これらの例は、たとえ大きな敷地がとれなくても、あるいは集合住宅やホテル等の西洋的な形式を受け入れても、外の世界を受け入れる住宅の顔としての門や玄関構えを特に重視してきたことを示している。

○戸建て住宅 pan

○多くの日本人が狭い敷地に無理をして門や玄関を造る

○同・門と玄関構え 3 カット

○これは日本人の住宅の理想像がこの門構えや玄関構えに深く根を下ろしているからである。

3	各論二・床形式の多様性	(三分十二秒)
○中タイトル 床形式の多様性		
<ul style="list-style-type: none"> ○青梅市の民家 外景 ⑤『青梅市 宮崎家』 ○ 入口⇒土間⇒座敷へ ○ 軒下 PD ○ 濡れ縁 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の住宅ではどんな西洋化や近代化が進んでも、玄関で下足を脱ぎ上履きに履き替えることや、裸足の生活がなくなるとは思えない。これには日本の、特に夏の湿潤な気候や木造住宅を主体としてきたことも関係する、 ○しかし、床形式の多様性を無視しては考えられない。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○奈良市今井町の町並み 1 ○今西家 屋根 ⑤『奈良市今西家』 ○ 塀 ○ 玄関 ○ 土間 ○青梅 宮崎家 内・外部の接点 	<ul style="list-style-type: none"> ○1960年代頃まで全国どこにでも見られた農家や町家—— ○こういった様式では、土間と板床と畳敷きの部屋つまり、座敷という三つの床形式を持つのが特徴である。 ○土間は、生産や商業などの場であるだけでなく、外の世界と住宅内部とを結ぶ接点である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○竪穴住居 ⑤『登呂遺跡』 	<ul style="list-style-type: none"> ○そこは、近隣の気軽なコミュニケーションの場であり、北方系の竪穴住居以来の庶民住宅の伝統の上に立つ象徴的な空間である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○高床住居 	<ul style="list-style-type: none"> ○板床は日本住宅の歴史の上で特殊な意味を持っている。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○桂離宮 ⑤『桂離宮書院』 pan ○ 書院全景 	<ul style="list-style-type: none"> ○南方系高床住居はやがて古代貴族の権威の象徴として表現され、清浄な場としての観念が伝統として生き残った。 ○同様に畳敷きの部屋も、単に日本人の体質に合った素材と言うだけではない。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○三井寺光浄院 客殿 ⑤『三井寺 光浄院』 ○ 押し板 ○ 長押 ○ 座敷 ○ つけ書院 ○ 軒と縁 ○ 庇 ○ 建て屋と庭 	<ul style="list-style-type: none"> ○武家住宅の様式を、名主の家や上流商家を経由して一般化した畳敷きの部屋は、当初は冠婚葬祭時のみ使用されたものであった。 ○このように日本住宅の床形式の多様性は、北方系と南方系という、原始時代からの系譜を異にする古代貴族の寝殿造りと、中・近世の武家の主殿造りや書院造りという各時代の支配階級の文化を継承しながら複合的に融合したものだと言える。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○吉島家 座敷の移動 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本人は、このような多様な床形式に柔軟かつ繊細に対応し、豊かな住空間を作り上げてきた。 	
4	各論三・和室のシステム	(一分四十七秒)
○中タイトル 和室のシステム		
<ul style="list-style-type: none"> ○イラスト 書院造りの断面図 ○三溪園の座敷 ○イラスト 座敷の使い方 接客, 宴会, 冠婚葬祭, 就寝 	<ul style="list-style-type: none"> ○和室は単に畳を敷き詰めただけの部屋ではなく、近世の書院造りでは、武家の接客空間として様式化されたものである。 ○建築の基本的な構造を軸組として一般化し、様々な用途へは造作として自在に対応する、極めて高度な生産力を持つ建築形式である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○胡蝶 座敷のひき ○ 畳のへりのアップ ○ 座敷と次の間 ○ 床の間 ○ 飾り棚 ○ 飾り棚⇒床の間へ ○ 几帳と花瓶 ○ 庇と簾 ○ 座敷から庭を見る ○ 座卓が据えられた座敷 	<ul style="list-style-type: none"> ○書院造りの座敷が様々な階層の住宅に普及した原因である。 ○この[軸組一造作]の構造システムによって座敷、次の間、縁などの複合的な空間構成や床の間、 ○飾り棚などの座敷飾り、そして押入れや各種の天井形式などがつくられる。 ○座敷飾りの使い方や襖・障子などの自由な開放によって、内部から外部への奥深い連続的な開放空間が生まれる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 天井⇒座椅子 	<ul style="list-style-type: none"> ○この連続した開放空間に、座布団や座卓を使用するとさらに多様な用途に対応することができる。 ○つまり和室とは、使う人間に比重がかかる訳で、箸や風呂敷などと共通する日本文化の特質になっている。 	
5	各論四・内部と外部の関係	(四分四十二秒)
○中タイトル 内部と外部の関係		
<ul style="list-style-type: none"> ○横浜 三溪園 庭⇒ pan ⑤『横浜 三溪園・臨春閣』 ○ 縁から庭を見る ○ 庇 ○ 回り縁と庭 ○ 庭と建て屋 	<ul style="list-style-type: none"> ○現代では、庭園と言えるほどの広い庭を持つ住宅は稀になった。 ○しかし、日本の住宅には、現代でも庭園と室内の関係を通して形成された空間の特質が色濃く投影されている。 	

○新有楽ビル 外景

(DIS)

- 有楽町胡蝶 手持ち移動
- ⑤『有楽町胡蝶 大江 宏』
- せせらぎ
- 天井⇒PD
- 枝折り戸
- 手洗い
- 灯籠

- 一つの例として、超近代的なオフィスビルの中に、あたかも自然のせせらぎのような川が流れている現代都市の新しい風景を見ることができる。
- ビルの地下などに実際の樹木を植え、露地を構えた茶室や料亭——
- ここに、自然の風景や庭園を大地の連続性から切り離して内部化しようとする、寝殿造り以来の日本住宅の根強い伝統を見ることができる。

○水

○寝殿造りの絵巻物 水辺に遊ぶ

- pan
- 西の門
- 回り縁
- 白水阿弥陀堂
- 軒下と縁の空間 情景
- pan
- 簾越しの外界
- 座敷から簾越しに見える庭 (ドローイング)
- 借景A
- 同 B

- 古代貴族の都市住宅、寝殿造り——
- 雨が降る山や森、田野を潤す川。
- そして、海へと輪廻する自然界の人工的再構成は、彼ら自身の生きている世界を理想化したものであり、庭園こそ彼らの中心的な生活空間であったことを知ることができる。
- 内部でも外部でもない、曖昧な中間領域と複雑な建具形式。
- これこそ日本住宅の持ち得るフトコロの深いデザインと言うことができる。
- 日本住宅の豊かな境界デザインは、さりげなさの中に奥深い秩序を持っていることである。
- 開口部や身近な景色に目を止めず、意識は自然に広大な外部の世界に広がっていくように造られた借景の技法。これは内部空間の心理的拡大だと言える。

○京都円満院 z・B

- 近接した庭園の景色を、半間ごとの開口部と広縁を通して全体像を心の中で想像しながら見る。これは限られたスペースをカバーするためのある種のフィルター効果と言うことができる。

○伏見稲荷 z・B

- 孤篷庵 忘筌
- 孤篷庵 忘筌
- 胡蝶 坪庭
- 胡蝶 雪見障子

- 障子の巧みな使用によって、近接した狭い外部を親和化した舟入りの技法。
- この技法は坪庭や雪見障子として受け継がれている。

○茶室 (半床庵) 中門

- 茶室建て屋
- ⑤『千駄木 半床庵』
- 枝折り戸
- 関守り石
- 手洗い石
- 躰口を入る 手持ち移動
- 床の間 PD

- 茶室の露地は、露地門—中門—中潜り—躰口など、そこに至るまでに徐々に開口部を狭めながら幾重にも空間を区切り、少しずつ小さな植物や景物に意識が止まるように配慮したものである。
- 歩く速度を緩めることで躰口を潜った時に小さな茶室が広大なスペースを感じさせるよう意図したものである。
- 明暗の変化、肌理細かな素材と空間の処理、家の象徴としての床の間など、これらはすべて外部から内部へと連続する空間の内面化を助長する卓越した空間構成法だと言える。

6	エピローグ 伝統と新たな住宅文化	(一分三十三秒)
---	------------------	----------

○中タイトル 伝統と新たな住宅文化

○イラスト 超高層住宅案

- 現代住宅は、言うまでもなく都市問題と一体になって考えなければならない。都市の過密化に対応し、魅力ある都市住宅を創造することは最も緊急な課題である。
- それらの提案の一つに伝統的な自然庭園と室内の関係を最新の技術で大胆に高層化したものがある。

○住宅展示場 数カット

- また、工業プレハブ化住宅の一群には、高度な技術を駆使しながら、日本の伝統住宅の特質を積極的に取り入れているものが増えている。

- 奈良の農家 1
- その全景 2
- 信州の民家
- 奈良 今井町の町並み 2
- 奈良 慈光院の書院
- 白川郷の農家
- 囲炉裏
- 煙につけて pan

- 日本の風土・文化の中で伝統的に形成され、日本人の生活思想の根底と深く結び合ってきた以上の特質をはっきりと把握し、現代の都市的条件や生産技術の中で、これからの住宅文化を築いていかなければならない。

(F・O)

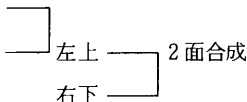
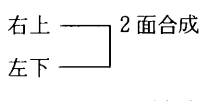
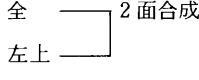
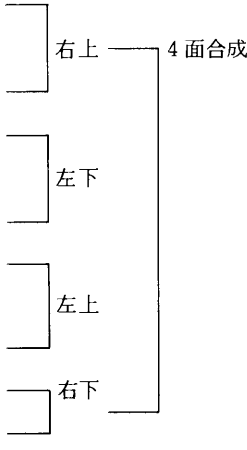
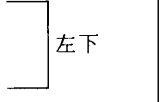
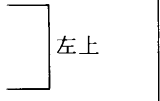
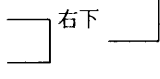
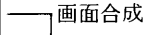
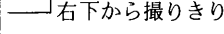
- タイトル
- ・原 作
- ・企 画・監 修
- ・協 賛 研究助成
- ・取 材 協 力
- ・制 作

3-3 映像編集用データ

次の段階では、3-2で作成されたシナリオに対応して、そのイメージに近い映像を取材、撮影することになる。これらの撮影に関しては、映像制作会社に委託して行われた。撮影には、ビデオカメラを使用しており、記録方式は、ベータカムタイプのVTRである。撮影された素材テープの長さは、約300分である。撮影された素材となる映像の中から、具体的にどのような映像を全体のバ

ランスの中でどのくらい採用し提示するかが問題となる。そのために編集用の具体的なデータ作りが必要となり、それを示したのが表-2である。このデータは素材テープと共通のアドレスコードを有するワークテープを用いて、仮編集を行うことによって得られたものである。ここに示されている通り、構成に必要なと判断された映像の素材のカットは、148カットとなり、1カット当りでは、約5~6秒で展開されていくことが必要である。

表-2 「日本の住宅」編集用データ

CUT	DURATION	CONTENT	PS
1		シリーズ・タイトル	シリーズタイトル「日本建築画像大系」
2		窪田家母屋 (メインタイトル)	メインタイトル「日本の住宅-伝統と未来-」
3		中タイトル④ (プロローグ)	ST「●多様な日本の住宅」
4		超高層ビル - ZB→ 木造賃貸アパート	
5		青梅市・滝島家 UP	
6		同上 WD	
7		住宅展示場 PAN	
8		佃島の住宅	
9		岩崎邸	
10		光が丘団地 俯瞰	
11		田園調布 戸建て住宅	
12		石井和紘 54の窓 1. 外景PAN	
13		2. 内部	
14		3. 外景ZB	
15		毛綱毅曠 反住器 1. 外景PD	
16		2. 内部PU	
17		3. 外景FF	
18		石山修武 幻庵 1. FF	
19		2. 茶室内部	
20		3. 内部	
21		山本理顕 ロトンダ 1. PD	
22		2. 外景仰ぎ	
23		中川 武 解説同録	ST「中川 武」
24		窪田家 門	
25		玄関構え	
26		宮崎家 土間 PAN→	
27		障子の閉じた居間	
28		障子の開いた居間	
29		畳と敷居	
30		中川 武	
31		中タイトル② 各論1	ST「●門と玄関構え」
32		窪田家 門	

CUT	DURATION	CONTENT	P S
33		門から手持ち移動	
34		玄関	
35		佃島 露地	
36		屋根	
37		玄関	
38		露地手持ち移動	
39		梅の花	
40		玄関口	
41		新高輪プリンスホテル 外景	<input type="checkbox"/> S T 「新高輪プリンスホテル 村野藤吾」
42		廊下, 入口へ Z I N	<input type="checkbox"/>
43		門灯 P D→内扉	
44		一般的戸建て住宅 門と玄関1 P A N	
45		同 上 2	
46		同 上 3	
47		同 上 4	
48		中タイトル③ 各論2	S T 「●床形式の多様性」
49		青梅市 宮崎家 外景	<input type="checkbox"/> D S S T 「青梅市宮崎家」
50		入口 移動	<input type="checkbox"/>
51		軒下 P D	
52		濡れ縁	
53		奈良市今井町 町並み1	
54		今西家 屋根	
55		玄関	<input type="checkbox"/> S T 「奈良市今西家」
56		土間	<input type="checkbox"/>
57		宮崎家 座敷 P A N	
58		天井 P A N→床の間	
59		土間1	
60		土間2	
61		竪穴住居(登呂遺跡)	S T 「登呂遺跡」
62		高床住居 P D	
63		外景	
64		桂離宮 P A N 1	S T 「桂離宮 書院」
65		桂離宮 P A N 2	
66		三井寺光浄院 客殿外観	S T 「三井寺光浄院」
67		押し板	
68		長押	
69		座敷	
70		つけ書院	
71		軒と縁	
72		庇	
73		建て屋と庭	
74		吉島家 座敷の移動	
75		中タイトル④ 各論3	S T 「●和室のシステム」

CUT	DURATION	CONTENT	P S
76		書院造り断面図	
77		三溪園 座敷	
78		イラスト座敷の使い方 P A N Z B	
79		有楽町胡蝶 座敷	
80		畳のへり	
81		座敷と次の間	
82		床の間	
83		飾り棚	
84		飾り棚 P A N→床の間	
85		几帳 <small>きょうたん</small> と花瓶	
86		庇と簾	
87		座敷と庭	
88		座卓のある座敷	
89		天井 P D→座椅子	
90		中タイトル⑤ 各論4	S T 「●内部と外部の関係」
91		横浜三溪園 庭 P A N	S T 「横浜 三溪園・臨春閣」
92		縁から庭を見る	
93		庇	
94		回り縁と庭	
95		庭と建て屋	
96		新有楽ビル 外景	
97		有楽町胡蝶 手持ち移動	S T 「有楽町 胡蝶 大江 宏」
98		せせらぎ	
99		天井 P D	
100		枝折り戸 <small>しお</small>	
101		手洗い	
102		灯籠	
103		水	
104		寝殿造り 絵巻物 1. 水辺に遊ぶ	
105		2. P A N	
106		3. 西の門	
107		4. 回り縁	
108		白水阿弥陀堂 Z B	
109		軒下と縁の空間	
110		P A N	
111		簾越しの外部	
112		ドローイング 簾の掛かった夏の座敷	
113		借景1	
114		借景2	
115		京都円満院 Z B	
116		伏見稲荷大社 Z B	
117		孤蓬庵・忘筌1	

CUT	DURATION	CONTENT	P S
118		孤篷庵・忘筌 2	
119		胡蝶・坪庭（舟入りの技法）	
120		胡蝶・雪見障子	
121		半床庵 茶室中門	
122		建て屋	ST「千駄木 半床庵」
123		枝折り戸	
124		躰口より入る	
125		床の間 PD	
126		中タイトル⑥（エピローグ）	ST「●伝統と新たな住宅文化」
127		イラスト 超高層住宅案・全体 ZIN	
128		子供	
129		畑	
130		全体 ZB	
131		住宅展示場 1. 外景 1	
132		2. 外景 2	
133		3. 外景 3	
134		4. 内部 1	
135		5. 内部 2	
136		6. 内部 3	
137		奈良の農家 1	
138		奈良の農家 2	
139		信州の民家	
140		奈良 今井町の町並み 2	
141		奈良 慈光院・書院	
142		白川郷の農家	
143		いろり 囲炉裏	
144		煙につけてPU F・O	
145		エンドタイトル 1. 原作・企画・監修	ST「原作：中川 武 企画・監修：尾島俊雄」
146		2. 協賛・研究助成	ST「協賛 新住宅普及会 etc.」
147		3. 取材協力先リスト	
148		4. 制作	
149			
150			

4. おわりに

今日の建築学は、技術等の急速な進歩によって専門分野が細分化され、要求される情報は非常に膨大なものとなっている。特に初学者や一般の人々がその全容をとらえることは非常に重要でありながら、ますます困難なことになっている。現在までの建築学の研究によって得られた成果は、文字によって記録されている。これは専門家にとっては、非常に重要なものであることは、無論当然のことであるが、逆に初学者や一般の人々に対する積極的な情報伝達（広義には教育）の手段としては、必ずしも適したものであるとは言えない。総合的に理解することが可能となる媒体が是非必要と考えられる由縁である。このような課題に対して、当研究グループは建築分野の映像化を推進する「日本建築画像大系」の編集委員会に参加しており、本研究はその中のテーマの1つとして位置づけられるものである。

この「日本建築画像大系」の制作は、早稲田大学情報科学研究教育センターを中心として行われているものであるが、その1つに位置づけられる、今回我々が担当した「日本の住宅」の制作に当たって、当財団の研究助成を頂戴し制作のための検討が可能となった。また全体の「日本建築画像大系」の研究開発には、建設業界、エネルギー業界等多くの協力によって、映像教材の制作が進んでいることを記して、お礼申し上げます。

本研究は、(その2)研究が継続的に研究助成を頂戴しており、第2年度はここに報告された成果に基づいて実際に映像の制作に入っている。次年度はここに報告された検討結果が、完成作品として成果報告される予定である。

<注>

- 1) 中川 武「日本の住宅」：「21世紀建築のシナリオ」
(1-1)、日本放送出版協会、1985-2

<研究組織>

主査	中川 武	早稲田大学理工学部教授
委員	鈴木 恂	早稲田大学専門学校教授
	渡辺仁史	早稲田大学理工学部教授
	嘉納成男	早稲田大学理工学部教授
	須藤 諭	早稲田大学情報科学研究 教育センター助手